

ID	分科会名	分科会会員参加可否	目的・活用概要	対象者	活動計画	活動方法	2024-2025年度主な成果物
301-smallsteps	SPI推進課題分科会	認める	SmallSteps分科会は、改善に役立つちょっとしたノウハウ（蓄積された個別のSmallSteps事例）を「活用可能なレベル」で文書化する活動を行っており、ゲーミフィケーション理論に基づきノウハウや原理を楽しむ学べる改善初級者向けSPI人生ゲームを開発し、試行を行って効果を分析して論文にまとめ、EuroSPI2024で発表を行いました。昨年度から、SPI事例研究分科会が開発した改善知識の表現形式である互理帳を参考にして、SmallStepsに記載された様々なノウハウを知識として再利用しやすい形式に書き直す活動に取り組んでいます。	①活動目的「改善の現場で困っている人を支援したい、逆に支援を受けてスキルアップしたい」に共感いただける方 ②現場で使用可能な改善のための知識について、初心者も含めて再利用性を高めるための取組みに興味を持ち、活動を体験してみたいとお考えの方 ③ゲーミフィケーションを教育に活用したい、実際にゲームを体験して効果を確かめたい方 初心者募集・経験不問ですので、少しでも興味をお持ちの全ての方のご参加やひやかしを歓迎します。	本年度は、以下に取り組む予定です。 Smallstepsの改良・拡充 －引き続き、内容を拡充する。(特に、計画以外の活動フェーズ分の抽出) －生成AI時代の開発/改善スタイルに合わせてsmallstep (tips・ノウハウ)の収集 Smallstepsの普及(によるSEPG育成や開発者のSPIスキル向上の支援) － SmallstepsをベースにSEPGの悩み相談(進め方を指南)するAIエージェントの作成 － SPI Associate関連の教育コースとの連携(コース内での紹介、演習での活用) ―― 以下はニーズを見極めて、実施を検討する: SPI人生ゲームの追加分析・改良(継続的な)実施(によるSEPG育成支援) － 会員企業内での追加開催 － 新規のデータに基づく分析と、内容の改良 － 初級者向け教育における位置づけの明確化とSPIアソシエイト資格との連動の検討 具体的には、初心者向け教育に止まらず、SPI推進者の実務を支援するツールとして、発展を見据えて資格推進Tとの連携も継続模索していきたい － PM要素を盛り込むことで、新バージョンのゲーム開発につなげる － PMBOKを含めた拡充などにもとり組み、試行を継続 － BOKを使ったGamification(トレーニング)作成支援サービスの提供	・ 月1回程度のペースでWeb会合を開催して、予定した活動を進める ・ 成果物のまとめ、および集中ディスカッションのための合宿を実施する(WebまたはReal)	Smallsteps V2.1一式(2025年度版)
302-WOK	SPI事例研究分科会	認める	カンファレンスの発表論文やJASPIC内の企業事例などを学習し、自分たちの組織で活用できる知識を「互理帳」として抽出することで、SPI事例をより深く理解することを主な目的とする。 併せて、類似の知識を共有し、抽出した知識をSPI-WOK(SPI知識網)に追加することで、コミュニティにおける知識の共有・資産化・再利用の促進を推進する。	①SPI事例を幅広く学習して知識を組織に持ち帰りたい、また、会合参加者から参考となる知識を吸収したい方 ②吸収した知識を再利用可能な形で整理して、蓄積・活用したい方 ③蓄積した知識を体系化して関係性を整理し、より再利用しやすい形で公開する仕組みを整備する活動に興味のある方	【これまでの活動テーマ】 プロセス改善において必要とされる知識の構造や関係性、コアとなる部分やその広がりを調査研究することでプロセス改善や知識に関する理解を深め、あわせて、必要な知識の収集と活用のしくみを構築する活動として、2019年度以前は、SPI Japan カンファレンスの発表概要のテンプレート化や作成ガイドの提供、発表事例から知識を抽出して文書化するテンプレートとしての「互理帳」の開発を行ってきました。 2020年度以降は、定期的に勉強会を開催し、事例の勉強(輪読・議論)や事例発表者との議論を分科会合同や公開の場で実施し、「互理帳」を作成して知識の蓄積を行うと共に、蓄積された知識を公開するための仕組み構築に向けた検討を実施してきました。併せて、SPI Japanの応募者への支援として発表概要の確認・作成支援を行ってきました。 最近では、生成AIの活用にも力を入れており、事例概要の評価や、知識の抽出(「互理帳」の作成)を生成AIで行い、結果の人間系との比較評価にも取り組んでいます。 【今年度の活動計画】 2026年度は、以下の活動を実施する予定です。 1. 定期的な会合 2. 改善知識を抽出する仕組みの構築:互理帳テンプレート/ガイド/支援キットの構築・改善・公開・普及 3. 改善知識の抽出・収集:SPI Japanや会員企業事例を対象とする互理帳の作成、生成AIによる抽出・分析・評価(例:多階層知識の抽出) 4. 改善知識の体系化の仕組みの構築:体系(BOK・WOK)の整理、蓄積・公開の仕組み(インフラ:wiki/chat)の整備・構築 ※「互理帳」として蓄積された知識同士の関係性や特徴などに着目した分類/グルーピングから、WOK(知識網)/BOK(知識体系)として整理していくために必要な検討を行う。ボトムアップ/トップダウンの両方からアプローチして、WOK/BOKの姿を明らかにする 5. WOKのコンテンツの拡充:WOK公開やNoteでの公開など 6. SPI事例の企画・計画・実行・共有のための支援:通年でのSPI Japanの応募支援、(会員企業内部事例の推進支援)	・月1回程度のペースで会合を開催して、各自の検討結果等を持ち寄りディスカッションを行う。 ・成果物のまとめ、および集中ディスカッションのための合宿を企画して実施する(したい)。	・互理帳-2025年度分 ・「SPI事例概要」作成支援パッケージ:2025年版
304-spc	ソフトウェアプロセスデータ実践コミュニティ	認める	・ソフトウェア開発に関する、プロセスデータの収集・分析・活用に関する技術交流を行います。 ・ソフトウェアプロセスデータの分析に必要な統計の基礎を学ぶとともに、データ収集や活用に関する ディスカッションを行い、実践的で効果のある分析・活用の実現方法を考えます。 ・ソフトウェアプロセスデータの経験共有をすすめます。(パターン言語など)	①現場でSPI活動を始める方 ②現場でのSPI活動に日々苦労されている方	■これまでの活動成果 ・統計技術に関する書籍の輪読および事例紹介 ・データ活用(AI技術含む)に関する外部講演 ■今年度の取り組み(予定) ・データ分析技術に関する定期輪読会(オープン参加可能、Zoom使用) ・フリーディスカッション:データ収集・分析・活用および「価値」に関する事例・文献紹介、課題共有や悩み相談と話し合い、情報共有化方法(パターン言語など)の検討	月1回程度の定期的会合。希望参加者内の調整により決めます。 当面はリモート開催(Zoom)とします。 状況が許せば、メンバー所属組織の協力を得た実会合や、合宿形式での集中勉強会を開催します。	実証的改善パターン言語(適用効果評価)
307-CCT	コア・コンピテント・チーム研究会	認める	現代のソフトウェア開発で強く求められる、マインドセット、コミュニケーション、チームワークといった、“非技術的スキル”“ソフトスキル”を様々な観点で捉え、議論しながら理解を深めます。 また、生活に欠かせない様々な組込みソフトウェアについて開発や品質をあらためて議論します。	①「楽しくてやりがいのある」人生を追求したい方 ②自らの悩みや経験を、他の技術者と分かち合い、議論して、お互いに刺激し合いたい方。 ③組込みソフトウェアの開発や品質および人的コンピテンシーに課題を感じている方。	働き方に関連する参考書籍を輪読(ABD)して経験や感想を話し合い、問題を掘り下げます。 関連する技術・手法や論文等を持ち寄り、チームと個人の関係、集団やネットワークとチームの違いなどの理解を深めます。 関連技術・手法 ・人間を大切にするプロセス・組織として、People-CMM ・心理・感情のとして、カウンセリング、コミュニティ心理学、感情心理学 ・働き方、やりがいの学習として、キャリア自律、コンピテンシマネジメント ・組込みソフトウェアのプロセスや技術と、人的コンピテンシーや人材管理(育成、動機付け、調達など)の関係 関連文献(予定) チームの力で組織を動かす SI企業の進む道 サステナブルソフトウェア時代 エンジニアリング組織開発 創造力	・ 月に1回程度の会合(主にWeb会議)およびメーリングリストでの議論。 参加の障壁とならないよう、会合は最長1時間とし、できるだけ短時間かつコンパクトな場にする。 ・ 環境が整えば合宿での議論を行う。	・2025年度の活動議事録
308-SPL	プロダクトライン分科会	認める	プロダクトライン分科会では、その名の通りシステムおよびソフトウェアのプロダクトライン(SPL)に興味を持つ研究員が集まり、2005年から活動を続けています。年度の初めに決めた活動テーマに沿って、各自が本業の傍ら調査検討した結果を持ち寄り、月1回程度の集中討論を交わすことで、新たな知見を獲得し、プロダクトラインへの理解を深めています。	①プロダクトライン型の開発を成功させたい方 ②プロダクトライン型の開発の導入を考えている方 ③複数の製品ラインナップを効率良く開発したいと考えている方 ④ソフトウェア資産やプロセス資産を有効活用したいと考えている方 5プロダクトライン開発の考え方や技術を開発以外に適用したいと考えている方 興味をお持ちの方のご参加を歓迎します。	本年度もオンライン会合やオフライン合宿など分科会メンバーの経験や知見を活かした会合の場での議論等を通じ、新たな理解を得て、今まであまり触れられていなかった観点からプロダクトライン開発の様々な姿と問題点について検討を進め、その結果をSPLノウハウとして成果物にまとめていきたいと思います。 特に、アプリケーションドメインを表現するフィーチャモデルに着目し、そこからシステムの論理アーキテクチャを導出して開発に適用したり、既開発のシステムの本来のアーキテクチャを見つけてシステム改修時に適用したりする応用を考えていく予定です。 具体的には、以下のテーマを候補と考えています。 ・フィーチャモデルのさらなる展開 ・システム/ソフトウェアアーキテクチャの参照アーキテクチャ導出方法 ・既存システムの変更時にその参照アーキテクチャを当てはめて「本来のあるべき」アーキテクチャから外れずに保守性を下げない考え方 ・これらフィーチャモデルや参照アーキテクチャで識別されるサブドメインを他のドメインで応用する可能性の検討 など、その他、別の有望な展開候補があれば参加者の方のご興味を併せて追加したいと思います。	・月1回程度のペースで遠隔会合を実施して各自の検討結果等を持ち寄りディスカッションする ・集中ディスカッションおよび成果物のまとめのための合宿を実施する	・2025年度の活動議事録
310-HRD	人材育成分科会	認める	人材育成分科会は、ソフトウェアプロセス改善のための人材育成を各種の課題、技法、教育体系、知識体系等の観点で検討を加え、得られた知見をもとに各社の教育プロセス改善に役立つ成果物作成を目指して活動しています	①ソフトウェアプロセス改善(SPI)活動の人材育成や組織能力開発に日夜苦労されている方 ②SPIの教育体系・人材育成技法について知見を広めたい方 ③SPI推進者として知見を高めたい方	2016-2017年 アジャイル型人材育成調査・研究／アジャイル分科会連携 2017-2018年 ゲーミフィケーション活用ワークショップ開発と実施(SSs分科会と協同活動) 2018-2020年 ゲーミフィケーション活用ワークショップのブラッシュアップとTeal組織とOKRの調査と適用検討 2021-2025年 エンパシーについての調査と整理、エンパシーを向上させるワークショップ(ソシオドラマ含む)の開発	・ 月1回のペースで定例会合を開催して、各自の検討結果等を持ち寄りディスカッションする ・ 年1回の合宿により集中して成果物を作成する	・2025年度の活動議事録(Miro-Board)

ID	分科会名	分科会会員参加可否	目的・活用概要	対象者	活動計画	活動方法	2024-2025年度主な成果物
311-KS	関西分科会	認める	目的:「ソフトウェアプロセス改善の対話を関西で実施したい。」という目的で設立した分科会です。 社内で解決できない理想と現実のギャップを解決するために、メンバーでアイデアを出し合いながら知識やスキルを向上することを目的としています。 活動概要:社内外でおこるソフトウェアに関する課題、悩み、理想と現実を各自もちより、その解決の糸口を見出すための分析や情報共有を行います。	①社内で解決できないソフト開発に関する課題をお持ちの方。 ②日本のソフトウェア開発をよりよくしていこうと日々努力している方。	社内外でおこるソフトウェアに関する課題、悩み、理想と現実を各自もち、深堀する。 【今年度の予定テーマ】 (新規予定) ・経営視点を考慮したSPIIに向けて、創業経緯や独自の経営活動を学ぶ。 ・AIの活用状況を共有し、SPIIや品質とAIを議論する。 (継続) ・「人を大事にする」プロセス、組織、風土の研究 (People-CMM) ・UXと人間の関係性の研究 (認知、行動、心理とのつながりなど) ・心理・感情に関する学習 (カウンセリング、コミュニティ心理学、感情心理学)	月に1回程度の会合(主にWeb会議)およびメーリングリストでの議論。 参加の障壁とならないよう、会合は最長1時間とし、できるだけ短時間かつコンパクトな場にする。 環境が整えば合宿での議論を行う。	・2025年度の活動議事録
313-RD	要件定義プロセス分科会	認める	要件定義プロセス分科会では、要件定義にまつわる書籍を読み、要件定義のスキル向上を目指します。	要件定義について語りたい人 [匠メソッド]を勉強したい人	今回は、要求から仕様までを網羅的に扱っている「匠メソッド」の本を輪読します。 隔週単位で、読んでいき、その時に気になったワードやセンテンス、感想をみんなで読みあい記載内容を深めます。 - 進め方: ①事前に各章を読む ※担当制ではなく、全員が読んでおくことを想定 ②気になる文言、事象について洗い出し、Miroで共有する ※分担して講義するスタイルではありません。 ③会合で感想を共有し対話する	zoom + miroで実施。	・2025年度の活動議事録 (Miro-Board)
314-PuKaSe	プロセス改善戦略分科会	認める	・SPI Manifestoや分科会策定の戦略フレームワークを用い、メンバーが所属する組織・事業を主な対象とした「戦略の策定・評価・改良」の議論を通じて、改善活動の進め方を改善する。 ・(軍事戦略、ビジネス戦略など)プロセス改善以外の他分野も含め、戦略についての研究を行う。	①プロセス改善活動の進め方に悩んでいる方。 ②プロセス改善活動の戦略的な計画立案や、現在の戦略の診断・見直しに関して興味のある方 ③プロセス改善戦略のフレームワーク研究に興味のある方も歓迎	以下の赤字部分を特に対象として活動。 ・戦略フレームワークやSPI Manifesto/ISO33014を用いて、分科会メンバーの組織・事業を対象とした「戦略の策定・評価・改良」を行い、改善活動の進め方に関する議論を行う。 - 分科会メンバーの所属する組織を対象として、分析を通じた相談・アドバイスを行う。 特に、ソフトウェア開発以外の改善活動への適用の可能性を探る。 - 分科会外、研究員外、JASPIC会員外の組織への適用の可能性を探る。 (- 既存文献 (SJ事例・例会事例等)における改善活動を対象として、戦略分析・抽出・議論を行う。) ・(プロセス改善戦略を中心として、他分野も含めた)戦略についての研究を行う。(輪読・勉強会) - 戦略全般に関する一般書籍や標準類 (ISO33014やIDEALモデル、OODA、DX戦略等)の学習を行い、戦略フレームワークの高度化につなげる。特に、生成AIを用いたフレームワークの活用方法を研究する。 ・戦略フレームワークを使いやすくする。 - AIによる支援の追加(戦略フレームワークをベースにした、事例分析・診断) ・これまでの活動の成果や、(分科会メンバー以外の事例を含めた)評価結果をEuroAsiaSPI等のカンファレンスで発表する。(または次年度の発表に向けての準備を行う) - JASPICメルマガを通じて、事例募集(相談会実施)を発信する - noteで戦略フレームワークの内容や、相談会募集を発信する。(JASPIC noteのサブサイトとして314を立ち上げる)	・月に1回程度のWeb会議 ・年に1回の合宿(今年度はリアル合宿も検討) ・(できれば)学会発表	・2025年度の活動議事録 (Miro-Board)
315-ideal	IDEALモデル実践研究分科会	認める	キャッチフレーズ: あい(AI)でやる分科会 IDEALモデルをベースとしたSPI活動に、生成AI(ChatGPTなど)を取り入れる研究 (IDEALモデルやCMMIなどをベースとして、生成AIを活用したプロセス改善事例を研究(事例収集、分析など))	①最近のプロセス改善動向(経営層の視点・アジャイル開発など)を踏まえ、適切なプロセス改善サイクルを模索されている方 ②プロセス改善活動で生成AIを活用することに興味がある方	1.生成AIを活用したプロセス改善事例研究 ① 生成AIを活用した様々な事例(プロセス改善事例をメイン)を収集・共有 カンファレンス・学会・セミナーやWeb公開されている生成AIを使用した様々な事例を収集 有料イベントや書籍購入などは、分科会予算を活用 ② 事例の分析・活用研究 収集・共有された事例を深堀し、IDEALモデルやCMMIプロセス領域などと照らし合わせ、生成AI活用ポイント・工夫点・有用性などを分析し資料化 2.生成AI動向情報共有 生成AIに関するモデル・規格・規制などの各種情報の共有	月一回を目安に、Web会議で議論予定	生成AI勉強会資料
316-ECQA	「SPI manager分科会	—	現在休会中	—	—	—	—
317-Offshore	オフショア分科会	認める	・オフショアノウハウ集 体系化 オフショアにおける様々なノウハウをカテゴリ(プロセス・文化・制度など)毎に分けて体系化した成果物作成 ・IRC (Intercultural Readiness Check)を用いたオフショア国の異文化コミュニケーションの研究 ・オフショア状況共有 各国の一般的なオフショア状況(オフショア開発白書など)、特定国深堀り議論(例:インド・フィリピン)	①オフショア発注/推進している、またはオフショア発注を検討している方 ②オフショア開発対象国の国民性や適性などに興味がある方 ③オフショア開発に関する知見・経験などを共有していただける方	オフショアノウハウ集 体系化 短時間(各回 1H)で定期的(毎月)な検討会を実施して、成果物として仕上げる IRCに対して理解・試行・取込というフェーズで取り組む - IRCの理解:ノウハウ集の約30件について、8つの側面のどれに当てはまるかを議論しながらIRCの理解を深める Culture MapとHofstedeも適宜参照 - IRCの試行:ノウハウ集と類似の問題が起きている組織を特定し、キーパーソンにIRCを受診 組織の選定にはオープン分科会も活用 改善提案を組織で実行し、効果を共有 - IRCの取込・活用:試行結果を分析し、ノウハウ集に反映 IRC受診結果から受診者へのフィードバックなどを検討	基本的には、短時間(1時間)で1回以上／月でリモート開催 IRCなど大きなテーマ時は、集合(リモートハイブリッド)開催	なし

ID	分科会名	分科会会員参加可否	目的・活用概要	対象者	活動計画	活動方法	2024-2025年度主な成果物
319-agile	アジャイル分科会	認める	アジャイル開発は近年ますます適用領域を拡大しています。WEBシステム開発のみならず、企業の基幹システム開発や組み込みソフトウェア開発でもアジャイル開発の適用が進んでいます。適用が進んでいる背景には、以下のニーズがあり、アジャイル開発の狙いと合致しています。 ・変化の激しい市場環境に対応するために事業部門から素早い仮説検証と要求実現を期待されている ・AIなどに代表される急激な技術革新を武器として積極的にビジネスに取り込まなければならぬ ・上記のような不確実性(VUCA)に対応するためにはリスクの高いものの試行や短いサイクルでのフィードバックが必要 そして、アジャイル開発の根底には「改善」の考え方があり、JASPICのテーマである「ソフトウェアプロセス改善(SPI)」と深く関連しています。よって、JASPIC研究員がアジャイル開発の知識を得て、企業内で積極的にアジャイル開発を推進することは自然な流れだと考えます。アジャイル分科会では、その活動を後押しします。また、これからアジャイル開発を学んで一部でも実践してみたい、ご自身の業務にアジャイル開発の考え方を取り入れたいという方々も歓迎します。	①企業でプロセス改善を推進している人 ②アジャイル開発を推進する人 ③アジャイル開発に興味を持っている人 ④アジャイル開発に携わっている人	1Q[12-02月]:各社の状況確認&テーマ・バックログ作成、アジャイル関連書籍の読書会企画の検討 2Q[03-05月]:アジャイル関連書籍の読書会実施(アクティブ・ブック・ダイアログ®手法を用いた進め方を検討) 3Q[06-08月]:SPI Japan 2026にて永和システムと合同でアジャイルに関する企画 4Q[09-11月]:SPI Japan 2026にて上記企画の実施 その他、月次ミーティングを設定して以下を実施します ・分科会メンバがお互いの知見を共有します ・分科会メンバが抱える課題を皆で議論します ・アジャイル開発とは何かを知りたい方々への勉強会(主に読書会)を実施します ・読書会では、アクティブ・ブック・ダイアログ®(通称:ABD)手法を用いた進め方を取り入れるため、持ち帰りの宿題なしで会合中に読み切ることができます ・外部の講演動画の視聴や、資料の輪読を実施し、知識や知見を深めます	・月次ミーティングを設定して議論します ・Slack上に非同期の意見交換の場を設けます ・年1回の合宿を企画します	・2025年度の活動議事録(Miro-Board)
320-MLP	プロセス改善への機械学習応用分科会	認める	AI(機械学習)技術が急速に進展しつつあり、種々の分野への応用が模索され関心を集めている。そこで、機械学習技術のソフトウェアプロセス改善への応用に取り組む分科会活動を展開する。	・ChatGPTなど機械学習技術のソフトウェア開発・プロセス改善応用に関心のある方(初心者歓迎)	月1回程度会合(主にZoom)を開き、以下のような活動を実施する: ー基本的な文献輪読(情報処理学会ソフトウェア工学研究会監修「生成AIによるソフトウェア開発」オーム社) アクティブブックダイアログ方式により、毎回1章程度を目安に読み進める ー ChatGPTの使用経験・情報共有 (例)仕事や趣味でChatGPTを使ってみたという体験談 最近こんな技術がでたという情報共有 他分科会でのChatGPT使用経験の共有	月1回程度の定期的会合。希望参加者内の調整により決めます。 当面はリモート開催(Zoom)とします。 状況が許せば、メンバ所属組織の協力を得た実会合や、合宿形式での集中勉強会を開催します。	なし
321-SEC	セキュリティ分科会	認める	昨今の製品/サービスへのセキュリティ要求の高まりを受け、自動車や医療を始めとしてネットワークに繋がる電子機器全般の開発・運用・保守プロセスへの適用を狙った法規/標準が多数制定され、対象物を開発/提供する企業はサプライチェーンを含め、対応するためのプロセス改善を加速させています。中でも26年9月から脆弱性報告義務が適用され、27年12月には全面適用されるEUのCRA (Cyber Resilience Act) は、広くネットワークに接続される電子機器全般を対象にしており、開発/運用プロセスへの具体的な要求事項を定める整合規格は26年9月までに、製品機能への具体的な要求事項を定める整合規格は27年11月までに採択される予定です。当分科会では、CRAを始めとする国内外のセキュリティ法規制の内容を調査検討して必要なプロセス改善内容を特定すると共に、今後のセキュリティ法規/標準の動向を見据えて、あるべきプロセス改善の姿とそれに必要な知識やスキルの獲得方法を研究していきます。また、併設する勉強会では、AIがセキュリティに与える正負両面の影響を含むセキュリティ関連の最新動向をJASPIC会員のみなさまと共有するとともに、今後セキュリティに新たに取り組む方々へ必要な知識や情報を提供していきたいと考えております。	①自社製品/サービスのセキュリティ法規/標準対応や品質向上の一環で、セキュアな開発・運用・保守プロセスの整備や実践および展開に関わっている方 ②セキュアな開発・運用・保守プロセスの整備や実践および展開に必要な知識やスキルを身につけたい方 ③世の中のセキュリティ動向やサイバー攻撃/防御技術および関連する法規/標準の進化などセキュリティ全般の話題を知りたい方 その他、セキュリティ分科会の活動に興味をお持ちの全ての方のご参加を歓迎します。	EUのCRA(Cyber Resilience Act)の内容調査と理解、対応方法の分析や検討など ー開発/運用プロセスへの具体的な要求事項を定める整合規格は26年9月までに、製品機能への具体的な要求事項を定める整合規格は27年11月までに、順次採択される予定なので、ドラフトが公開された上記整合規格案に対して、 - ー内容理解と期待レベルの推定 - ー上記に関連してEUCGやENISA資料などの追加調査と分析 - ー対応方法の議論(活動内容レベル) - ー追加検討が必要な内容の特定と分析/検討 - ーその他、参加者個別の関心事に関する追加の議論や成果物作成など セキュアなプロセスの整備や対策技法などのテクニカル内容の議論 ー産業系制御機器全般を対象としたIEC 62443を含むCRAへの具体的な対応の議論・相談など 当分科会参加者のCRA以外の関心事に対する議論や調査/分析など - ー AI Safety InstituteなどAI関連の話 - ー 最新の情報・話題の共有 - ー その他、参加者の関心事について セキュリティ勉強会との連携活動 - ー勉強会へのセキュリティ関連ネタや資料の提供 - ー勉強会に参加してのお悩み相談での議論など - ーその他、勉強会からの要望への対応など	・ 月1回程度のペースでWeb会合を開催して、予定した活動を進める(基本は、平日18:00(or 18:15)~20:15) ・ 成果物のまとめ、および集中ディスカッションのための合宿を実施する(WebまたはReal) ・ 適宜、持ち帰りでグループごとに作業して成果物をまとめる ・ セキュリティ勉強会を併設する(基本は、前半1時間15分:勉強会、後半1時間:分科会)	・CRAと個別規格とのマッピング ・GAME OF CSIRT (IPA版)のゲーム実施キット
322-UX	User Experience 分科会	認める	社会の複雑化や流動化が高まることに伴い、システムやソフトウェアも信頼性だけでなく、利用時の品質の重要性が高まっています。法改正によりウェブアクセシビリティの向上が求められるなど、「利用者」を考える必要性が高まる一方でです。 これらは、アジャイルやDX、サービス化とも関係する領域ですが、見栄えや美しさといった狭義の「デザイン」で語られやすく、Experience(体験・経験)として学ぶ場は多くありません。この悩みを共有し解決を助ける場を作るとともに、ソフトウェア業界を牽引するJASPICとして文化・風土づくりに挑戦していきたいと考えています。	①「UX」に関する業務(開発、支援、管理など)を担当している方。 ②次のキーワードに関係する悩み・課題をお持ちの方。 UXリサーチ、UX評価、アクセシビリティ、ユーザビリティ、ユーザインタフェース、人間中心設計、デザイン、体験、利用時の品質 ③その他「UX」に魅力を感じた方、興味を抱いた方。	月に一度程度の定例会で、UXの取り組み状況や課題を共有し、解決方法について意見交換します。技術や考え方を学びながら分科会活動を楽しみ、良い活動体験(PX: Practitioner's Experience)を目指します。 様々なイベントを通じてUXの認知度・理解度を高め、使う人や関係する人にとって良いモノやコトの創造に貢献していきます。 ー 先行技術の調査(書籍やネット情報の共有、整理、実践報告) 行動変容とUX(行動を変えるデザイン) ー UXの実態調査と報告・提言 使い勝手、心地よさの事例、役に立つ(立たない)技術・ツール ー UX技術や人材を高める仕組みやプロセスの提案 UX人材の考え方、スキル領域 ー 実用情報の提供(メンバの知見の収集・定型化) 例)小ネタ、Tips集 UXUI導入支援ツール、同ゲームキット UXワークショップおよびカリキュラム	月に1回程度の会合(主にWeb会議)およびメーリングリストで議論します。 参加の障壁とならないよう、会合は最長1時間とし、できるだけ短時間かつコンパクトな場にします。	・UX(ユーザーエクスペリエンス)って何？ (2025年度JASPIC大阪合宿 講演資料) ・UXの価値を感じてみよう (SPIJapan2025 トーク&納得セッション 講演資料) ・カスタマージャーニーマップの作成 (SPIJapan2025 トーク&納得セッション ワークショップ資料) ・2025年度の活動議事録
323-Arch	アーキテクチャ分科会	認める	Society 5.0の実現に向けてSoSでのアーキテクチャ設計のプロセス改善が重要となっている。また、システム・ソフトウェア開発におけるアーキテクチャの重要性も高い。本分科会ではアーキテクチャに関して、主に以下に関する議論を進める。 - ー アーキテクチャ設計全般 - ー ISO/IEC/IEEE 42010/42020/42030、特に42010のアーキテクチャ記述 - ー IPA DADCアーキテクチャ成果物グリッド	①ソフトウェアを含むシステム、SoSのアーキテクチャ設計に関わっている方 ②アーキテクチャ設計プロセスの実装・改善に関わっている方 ③アーキテクチャの評価に関わっている方	(現時点では公開範囲を限定しています)	(現時点では公開範囲を限定しています)	ー